

2020年度 自己評価結果公表シート

学校法人清明学園

幼保連携型認定こども園もえれのもり

1. 本園の教育・保育目標

「目指す子どもの姿」

- ① たくましく健康な心と体を持つ子ども
- ② 自分で考えて、意欲的に行動する子ども
- ③ 思いやりのある子ども
- ④ 気持ちの良い挨拶ができる子ども

「職員間の目標」

- ① こども中心・あそび中心の「こどもの城」を目指す。
- ② 保育者は子どもの心のサポーターとなり、必要な時に支えられるように見守る。
- ③ 立ち止まらず、先に目を向け意欲的に何事にも取り組む。
- ④ 家庭との連携を怠らず、「共育」の推進を図る。（保護者との信頼関係の構築）
- ⑤ 社会人、企業人としての自覚と言動を意識する。
- ⑥ 子どもが育つために必要不可欠な美味しい給食の提供をし、素材の持つ本物の味を伝え、身体に不要な物を取り込ませないという、食育の基本を伝えていく。

2. 今年度の重点目標

1日の生活の流れの中で、保育教諭間でしっかりと連携を図り、子ども主体の生活とあそびのための日課や環境を工夫し、同じ子ども観、保育観の共有に務める。また、安心できる空間や居場所を作る。0～2歳児においては「言葉を手渡す」「気持ちが動いてから」を十分に意識し、丁寧なかかわりの中で基本的な生活習慣の土台を作る。

3. 評価結果及び改善策

評価項目	取組状況
保護者への対応及び保育方針への理解と啓発	見学者や在園児の保護者に園長だよりなどの発行物や動画、様々なツールを有効に使い、分かりやすく伝えてきた。今後も方法を工夫しながら、保育方針や保育内容などの理解が一層深まるよう進めていきたい。
子どもへのかかわりと保育計画	教育保育要領を基に全体的な計画を作成し年間指導計画を立案して、月案・週日案に落とし込んでいくことを今年度は意識し整理してきた。日々の子どもの見取りをしっかりと行い、年齢と子どもの発達に合わせ、その実態と乖離しない環境を通して行う保育の指導計画の作成に今後も努めていく。
保育の質の向上のための園内研修及び研究の充実	園庭や園舎内環境について、乳児部と幼児部の保育教諭が合同で学びあう研修や研究の機会を年間通してもった。また学園4園でも学び合う機会をもち、これにより学園全体の共通理解を深めることができ、今後の自園の課題などについても明確化された。

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

子どもの生活は「あそび」が中心であり、あそびに没頭できる環境を用意することで集中力、協同性、意欲、創造性や想像力、思いやりの心が育っていく。その中で子ども自らが見通しを持ち、意欲をもって継続したあそびができるようになること、また、人的環境である保育者は、子どもの目線に立ち、安易な声掛けをせず行動を見取り、可能性や発想をより引き出すサポートの姿勢を心がけ子どもの成長を全職員が共通理解し関わっていく。